

3 議 案

第 1 号議案 議事録署名人選任の件

定款第 30 条第 2 項にもとづき、次の二名を選任する。

1

2

第 2 号議案 令和 5 年度事業実績の件

令和 5 年度（2023 年度）事業報告

1. 全体評価まとめ

令和 5 年は世界気象機関によると史上最も暑かった 1 年であり、平均気温も産業革命前よりも約 1.45 度上昇してしまった。国連事務総長のグテーレス氏は「もはや地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言した。日本の夏も記録的な猛暑となり、秋まで暑さが続き、冬らしい気候になったのは年を越してからである。日本らしい「春夏秋冬」の四季がなくなり、「夏と冬の二季化」が心配である。世界的にも気象災害が頻発し、カナダやハワイの大規模な山火事、韓国やインド、リビアの水害、アメリカでは猛暑で多くの方が亡くなった。日本でも各地で 100 年に一度の豪雨が頻発し、被害も拡大している。経験したことのない猛暑が、脱炭素による温暖化を防ぐ「緩和」とともに、災害に備える「適応」への関心が高まった 1 年となった。

一方、えどがわエコセンター（以下、エコセンターという）は役員の改選があり新しい役員 3 名を迎え新体制となった。事業の実施状況としては、約 3 年間のコロナ禍から脱し、完全復活に繋がった躍進の年となった。事業実施数は 147 件で前年度に比べ微増であった。ただ、地域イベントやすすくスクール放課後環境教育などが実施できたことにより、参加者総数は 10,807 人で前年度に比べ約 67%増加した。

昨年に引き続き 6 月に開催した環境フェアは、屋外での展示のほかに総合文化センター内での展示も拡大し、昨年より 10 倍の 30,000 人もの参加があった。10 月には 5 年ぶりに 55 万人の来場者を集めた江戸川区民まつりにも出展した。春と秋の地域まつりも以前と同様に区民の賑わいが戻ってきた。また、もったいない運動の参加者が増えるとともに地道なフードドライブの常設回収の効果により、エコセンターの認知度もコロナ禍の 50%から 79%へ向上した。これはコロナ禍以前の数字を上回っている。さらに、エコセンターを紹介した You Tube のコンテンツは 3,500 回以上視聴された。

えどがわエコセンター中期計画(第4期)は、江戸川区気候変動適応計画の完成を待ち、2名の公募委員を加えた15名の策定委員会で、令和4年から5年にかけて策定に取り組んだ。日本一のエコタウンを目指すこれまでの活動理念を継承しつつ、世代や立場を超えて多くの区民・事業者・行政との連携のもと、環境や暮らしを共に創造していく社会、「共創社会」を目指していく。また、活動基盤の整備として(仮)SDGs推進委員会の新設や次世代を担う若者たちが汎用AIに負けないように、自ら考え主体的に行動できる環境教育の場を広げて行く。最新の機器を活用した情報発信の充実につなげる。通称名は「EE2030ビジョン」で、EEはえどがわエコセンターの頭文字EEとし、いい=GOODの意味もかけている。「共感」「共創」「協働」をキーワードに2030年のゴールを目指す。総会での承認を得しだい計画を進めていく。

企画提案事業の「ムジナモを発見地に戻そう」では、ムジナモを発見した植物学者牧野富太郎氏の人生をモデルして放送されたNHK番組「らんまん」に合わせ、区内で発見された食虫植物としてエコちゃんねる等でPRを行った。また、イオン環境財団からの助成金を元に育成セットを用意し、繁殖に取り組む会員の増を図った。さらに、現在の自生地である羽生市にエコアクション講座・バス見学会として訪問し、交流や連携を深めることができた。

葛西海浜公園がラムサール条約に湿地登録され節目の5周年を迎えたことから、10月に東京都港湾局が主催する「葛西海浜公園ラムサール条約湿地登録5周年記念イベント」に関係団体とともに出席参加した。また、東なぎさクリーン作戦の拡充を図り、企業や団体を対象に清掃活動に特化した活動を1回増加した。9月はまだ猛暑が続いており、熱中症の危険を避けるため短時間での活動となった。ほかにも「葛西海浜・臨海公園魅力発見・探検ツアー」「船上観察会」など5周年記念イベントを開催し、都内で唯一のラムサール条約登録湿地あることを多くの方々に周知することができた。

予てから懸案事項であった高等学校での出前授業の拡大が実現した。東京都立江戸川高等学校からの依頼により「総合的な探求の時間」に講師を派遣した。「自然環境の保全・再生」や「脱炭素社会づくり」、「循環型社会づくり」の3分野、7名による授業を実施し、生徒は社会の課題への気付きや解決に向けたヒントになる話を聞くことができた大変好評であった。

理事や会員による書籍の執筆、出版が相次いだ。高田雅之理事は「水辺に暮らすSDGs」3冊シリーズを監修、執筆した。また、循環型社会づくり委員会の安田宗光氏は「絶滅危惧種 手づくりもめんふとん」の出版に伴い、講演会を開催し、学術的にも高いレベルでの啓発活動に繋がった。

会員向け日帰りバス研修会において、気候変動対策の「適応」と「緩和」に関する施設である「首都圏外郭放水路」及び「鉄道博物館」を見学した。温暖化に伴う豪雨の被害が拡大している中、洪水を防ぐ施設や省エネに繋がる公共交通機関である鉄道の仕組みや歴史を知ることによりその重要性を再認識することができた。

江戸川区公式サイト「えどがわ Voice」にSDGsに取り組む行動している団体として紹介され、活動内容としておもちゃの病院やフードドライブ、家庭の省エネ診断、東なぎさクリーン作戦が取り上げられた。

東京都より平成31年に認定され5年経過し、第一回目の「認定」NPO法人の更新がなされる見込みである。

2. 主要事業別評価

- (1) 9月25日～12月9日にかけて開催されたSDGs Season in EDOGAWAでは、エコセンターも東なぎさクリーン作戦や葛西海浜・臨海公園 魅力発見探検ツアー、講演会等の6つの事業を実施し、SDGsの普及啓発に貢献することができた。区が10月28日に開催したSDGs FES in EDOGAWAに合わせ、東なぎさクリーン作戦を実施し、参加者には清掃活動や自然観察会を通じてSDGsの目標の14, 15番目となる環境保全の大切さを学ぶ機会を提供した。
- (2) フードドライブ常設回収は、令和4年度に比べ回収量が減少した。(8,866個、2,303.02kg) 食品ロス削減への意識が高まっていること、コロナ自宅療養者への配食サービス等の食品の持込が減少したことが理由として考えられる。
また、家庭のほか、イトーヨーカドーアリオ葛西店・小岩店やクボタスピアーズ、篠崎高校、東部地区協議会、江戸川区清掃課等と連携し、未利用食品を回収した。フードバンク5団体との連携も各団体の協力を得て円滑に実施できた。
- (3) ラムサール条約登録湿地をPRする事業として、令和5年度も東なぎさクリーン作戦や葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー、船上観察会を実施し、多くの区民に自然豊かな環境が存在しているや守り引き継ぐ行くことの重要性を周知することができた。また、ラムサール条約湿地登録5周年イベントにも出展し、エコセンターの取り組みをPRできた。
令和5年度は東なぎさクリーン作戦を2回から3回に増やし、企業や団体に優先して参加してもらうことができた。
- (4) 環境教育では、グリーンプラン推進校の対象校を小学校22校、中学校3校の25校とし令和4年度から5校増加した。取り組み内容もSDGs学習や稲作や蓮田、グリーンアドベンチャーなどの各学校の特色を活かしたものとなった。また、出前授業は17件の依頼があり、1,397名の参加があった。引き続きNPO法人生態教育センターから講師を依頼できることとなり、自然環境に関する学習内容を充実させることができた。
- (5) エコアクション講座は予定していた7事業の全てを実施することができ、講演会を4回、見学会・観察会を3回実施した。第2回エコアクション講座では、NHK連続テレビ小説で話題となった牧野富太郎博士が、江戸川区北小岩で発見した貴重な植物であるムジナモについて知識を深めるため、保護活動が活発な埼玉県羽生市を訪問し、羽生市ムジナモ保存会による講義を聞き、また、実際に自生しているムジナモの見学を行った。さらに、第3回エコアクション講座では、気候変動地域連携課及び防災危機管理課と連携し、各課の職員による異常気象や防災に関する講演を行った。
- (6) エコカンパニーえどがわは、新規登録数が6件となり令和4年度を下回った。退会事業所も13件と令和4年度を下回ったが、全体として登録事業所数は減少した。累計登録件数は293件となり、令和4年度よりも7件減少した。コロナ禍の状況も少しずつ落ち着きつつあるが、依然として企業にとっては厳しい状況が続いていると言える。また、SDGsに取り組む事業所を対象とした融資は非常にハードルが高く、エコカンパニーえどがわに登録する事業所数の増加の鈍化の要因の一つとも考えられる。

3. 次年度へ向けた重点課題・対策

令和6年度は環境フェアや江戸川区民まつり、地域まつりを含めたイベントでのもったいない運動のさらなる強化をしていく。

また、設立20周年に向けた取り組みとして、エコアクション講座の中で記念講演会の開催を予定している。講師には広く集客が期待できる著名人を招聘し、エコセンターのPRも兼ねて実施していきたい。あわせて、20周年の記念誌の編集・製作を予定している。

多様なネットワークの拡大に向けて、法政大学高田ゼミや青森大学東京キャンパス、東京都立江戸川高等学校等の学校その他、クボタスピアーズやNPO法人等の企業や団体との連携を強化していく。

東なぎさクリーン作戦の充実を図るため、3回実施する時期を見極め、全体の活動の効果を高められるように実施していく。また、清掃する場所や葦原にあるごみの収集について具体策を関係団体と検討していく。

グリーンプラン推進校の拡充では、25校から30校に拡大し、小学校から中学校、そして高校への連続性を確保するため、中学校や高校への掘り起こしを図っていく。

IMFによると、日本の名目国内総生産は令和5年にドイツに抜かれ、世界4位に転落した。3年後にはさらにインドにも抜かれ、5位に転落する見通しと言われている。残念ながら日本の経済力の低下は明らかとなっている。原因は専門家によると30年間にわたるリスク回避の思考が大きな要因ではないかとのことである。また、高齢化や人口減にともなう内需が弱い国の企業に対する投資は期待できないとの指摘もある。さらに、地震災害やこれまで牽引してきた基幹企業の不正行為や政治不安など様々なマイナス要因が盛沢山な中、どのように再生・再興させていくかが大きな課題である。

キーとなるのは既存の化石燃料からの社会的・経済的な機会と課題に対処するためのJust Transition（公正な移行）である。脱炭素社会への新しい仕事と雇用を生み出し、スムーズに移行できるか。社会的な対話とすべてのステークホルダーの参加が求められている。国では令和6年度に第7次エネルギー基本計画が策定される予定である。COP28を受けて大幅に進化したものとなることを期待する。

今年は世界の50カ所以上で、大統領選や国政選挙がある。ロシアは3月、韓国は4月、欧州会議は6月、米国は11月、インドは4月から5月、英国は下半期に選挙が行われ、特に米国の選挙には大きな関心が寄せられている。結果によっては再び化石燃料の時代に逆戻りする危険があり、国際協調主義が揺らぎかねない状況もあり得る。他人事として考えず、世界情勢をしっかりと注視していくことが大切である。

こうした中、太平洋地域にある18の島国・地域と日本による国際会議「太平洋・島サミット（首脳会議）」が7月16日から18日に東京で開催すると発表があった。安全保障もあるが、温暖化によって最も影響を受ける地域との連携強化は日本がなすべき重要な取り組みの一つであると評価したい。

エコセンターにも平成31年4月にパラオ、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦の方々が見学に来られた。温暖化による海面上昇により土地が消失する危機感から真剣にエコセンターの取り組みを聞いていただいた。区民・事業者・行政などが連携・協働して様々な立場の方々自主的に参加活動している様子にも大変感心されていた。SDGsに取り組んでいる話から皆さんもSDGsに関心があり、SDGsが万国共通語であることを痛感した。資源循環を有効に機能させるためにも身近なアジアの国との交流・連携こそ大切である。こうした国際交流等の取り組みはコ

コロナ禍が落ち着いた中、機会を見つけて積極的に進めていくべきであると考えている。

区内に2つしかない認定NPO法人として、令和6年度を振り返った際、良かったと言える社会か、より良い未来へともに進めたか、将来世代に禍根を残していないか、持続可能でwell-beingな社会へ一歩一歩、足跡を残しながら取り組んでいく。

『Go where nobody has gone

Do what nobody has done 』

～誰も行ったことのない場所に行け

そしてだれもやらなかったことをやれ～

ライフネット生命保険株式会社創業者

立命館アジア太平洋大学学長 出口治明

- (1) エコセンターの会員の増加を図るため、あらゆる機会を捉えてPRを行っていく。地域まつり等のイベントにおいて、会員勧誘用のチラシを配布し環境に関心のある区民の発掘に努めていく。また、SNSを活用しさらなる情報発信を行い、事業を周知し長期的に活動をしてもらえる若い世代の参加を促していく。
- (2) エコアクション講座は例年7講座計画しており、令和5年度では気候変動地域連携課と連携したプログラムを盛り込み、専門知識を有した気象防災アドバイザーから温暖化の影響で昨今多発する異常気象や災害について解説や対策について講演をしてもらうことができた。令和6年度も令和5年度同様に気候変動地域連携課に所属する気象防災アドバイザーの講演を依頼し、区民からの需要のある災害についての内容もあわせた講演会を検討していく。
- (3) フードドライブ常設回収については、4年目を迎え、安定した回収量を維持している状況である。家庭以外の企業や団体からの未利用食品も受け入れていることから、今後も取扱量の増加が見込まれる。事務局がメインとなるのではなく、会員団体主導の事業として実施できるように検討していく。
- (4) 令和5年度にラムサール条約湿地登録された葛西海浜公園が5周年を迎えた。これを契機として、さらに活動を活発化させるため、東なぎさクリーン作戦や葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー、船上観察会などをブラッシュアップさせ、今以上に区民に周知できるように取り組んでいく。また、若い世代に葛西の豊かな海を知ってもらい、将来に向け守り引き継いでいく担い手となってもらえるように取り組んでいく。
- (5) エコセンターが20周年を迎えたことから、20周年記念講演会の開催や記念誌を発行し、多くの区民にエコセンターを知ってもらえるように周知の仕方など工夫していく。また、中期計画（第4期）を実践するため、環境分野の壁を越えた共創社会の実現や環境教育の更なる充実に努め、区民一人ひとりが足元から行動できる環境をさらに充実させていく。
- (6) エコセンターの認知度を上げるため、目玉となるみどりのカーテン事業やラムサール条約登録湿地（葛西海浜公園）に関する事業、おもちゃの病院などを今以上にPRを行い、区民の誰もが、事業とエコセンターが結びつくような仕掛けを検討していく。

4. 事業評価

活動項目		令和4年度	令和5年度	増減
事業	事業数(件)	143	147	4
	参加者数(人)	4,563	10,807	6,244
会員等	会員数(個人・団体)	474	489	15
	もったいない運動参加者数(※累計人数)	144,362	150,176	5,814
財務	区補助金実績(千円)	35,110	33,048	△2,062
	民間等助成金実績(千円)	1,000	1,407	407

5. 科目別事業評価

活動項目	事業数(件)	参加者数(人)
(1) 環境教育・環境学習の推進事業	31	1,819
(2) 人材育成事業	7	248
(3) 区民・事業者・行政との交流・連携推進事業	68	7,554
(4) 情報の提供及び支援事業	1	26
(5) 自然環境の保全と活用	40	1,160
計	147	10,807

(1) 環境教育・環境学習の推進事業

○結果・評価

- ①令和5年度のグリーンプラン推進校では、25校(中学校3校、小学校22校)が参加し、8校において出前授業を行った。SDGs学習や稲作や蓮田、グリーンアドベンチャー等、各学校の特色を活かした多様な環境学習となった。
- ②出前授業の依頼は17件、参加生徒数は1,397人となった。昨年度と件数は変わらないものの、コロナ禍以前の参加校の申込みが再開し、新規校からの新たな申し込みもあり、今後の依頼増加の兆しがあった。また、全体的に自然環境に関する学習の依頼が多く、教室ではできないフィールドワークの需要が高いことがうかがえる。
- ③すくすくスクール放課後環境教育は、3年ぶりに事業を再開でき、14校422名が参加した。3年ぶりとしては参加校が多く、以前参加された学校が再び申込みをするケースもあった。買い物ゲームやエコ工作等、低学年に人気が高かった。体験型プログラムは低学年児童への環境学習のきっかけに利用が高まっていると考えられる。
- ④新たな取り組みとして、東京都立江戸川高校への出前授業を実施することができた。「自然環境の保全・再生」、「脱炭素社会づくり」「循環型社会づくり」の3分野について7名の講師を派遣し、総合的な探求の時間に社会問題の気付きや解決に向けたヒントになる話をし、生徒から好評であった。

○次年度への課題・対策

- ①グリーンプラン推進校は今後も参加校増加を目指し、更なる周知・PRを行う。また、中学校の参加が少ないため中学校に向けたPRを強化していく。

- ②出前授業が区内の小中学校にまだ広く周知されていないため、より多くの学校で活用してもらうため、プログラム内容の拡充や出前授業の周知をしていく。
- ③放課後環境教育については、更に多くの学校で参加してもらえるよう周知・PRしていきたい。また、担い手の高齢化の課題があり、継続実施できるような方法を研究していく。

(1-1) 学校等環境学習支援

項 目	計 画	実 績
環境学習支援（グリーンプラン推進校）	25 校	25 校（累計 220 校）
小中学校出前授業（総合学習等）	20 回/1,500 人	10 校 15 回/1,237 人 ※江戸川高校 2 回/160 人
子ども放課後環境教育（すくすくスクール等）	5 回/200 人	14 回/422 人

(2) 人材育成事業

○結果・評価

- ①令和 5 年度は計画していたエコアクション講座全 7 講座を実施することができた。地球温暖化や資源循環、自然環境保全の 3 つのテーマにあった講演会や見学会などを実施し、環境に関心を持つきっかけを区民に提供できた。
- ②第 2 回エコアクション講座では、NHK 連続テレビ小説「らんまん」で話題となった牧野富太郎博士が江戸川区北小岩で発見した貴重な植物であるムジナモについて、保全活動が活発な羽生市を夏休みに親子で訪れ、実際に自生しているムジナモを見学し、保存会の方の話聞くというタイムリーなバス見学会を実施し、好評であった。
- ③第 3 回エコアクション講座では、気候変動地域連携課及び防災危機管理課と連携し、気象防災アドバイザーと職員による異常気象や防災についての講演を行った。昨今の異常気象や江戸川区が海拔ゼロメートル地帯であることから区民の関心は高く、多くの参加者があり、次年度も継続したいプログラムとなった。
- ④第 5、7 回エコアクション講座は、ラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園を PR するためのプログラムとして実施した。親子を対象とした「葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー」は、実際に西なぎさにおける鳥類や底生動物の観察や地元の方からの葛西の歴史の紹介など、充実した内容であったものの、参加者が伸び悩んだ。また、「船上観察会」は屋形船から葛西沖や野鳥を観察できる珍しい機会であり、令和 4 年度同様に好評であり多くの区民に葛西沖の自然の豊かさや守り続ける重要性を知ってもらうことができた。

○次年度への課題・対策

- ①令和 6 年度のエコアクション講座は、過去に実施し好評であったプログラムを引き続き実施していく等、区民のニーズを考慮しながら検討していく。
- ②著名人を招いて行う講演会は、集客を見込んだ人選及びテーマに関心がありそうな世代をリサーチし、ある程度の集客を見込むことができるプログラム構成を検討していく。

(2-1) エコアクション講座

項 目	計 画	実 績
エコアクション講座	7 回/250 人	7 回/248 人

(2-2) 講演会

項 目	計 画	実 績
環境講演会	150 人	4 回/149 人

(2-3) 地域活動支援

項 目	計 画	実 績
もったいない講座（出張講座）	4 回/150 人	—

(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業

○結果・評価

- ① コロナ禍により令和 2 年度から中止が続いていた地域まつりや江戸川区民まつり等、大規模な区主催のイベントが令和 5 年度から再開し、もったいない運動や会員団体の活動の PR の場が復活した。
- ② フードドライブ常設回収は、4 年目を迎え広く認知され回収量も安定している。また、現在は企業が実施したフードドライブの未利用食品の提供も一定量受け付けており、円滑に多くの未利用食品をフードバンク 5 団体に提供することができた。
- ③ エコカンパニーえどがわは、退会事業所が 13 件に上った。コロナ禍が長引いたこともあり、依然として経営状況が好転せず厳しい事業所が多かったことが退会の増加につながったと考えられる。新規の登録事業所も 6 件あったが、前年度を下回った。退会事業所が新規登録事業所を上回ったことから、登録事業所数はトータルで 293 件となり、令和 4 年度から 7 件減少した。
- ④ みどりのカーテンモニター講習会は、新型コロナウイルス感染対策のため定員数を減らして実施し、参加者数は 199 名となった。QR コードによる報告の導入により、報告書の提出率が 87.4%と、ここ数年は高水準を維持している。
- ⑤ 第 46 回江戸川区民まつりにて、みどりのカーテンフォトコンテスト実施し、940 名もの来場者に投票していただいた。投票を通じてみどりのカーテンの PR を行うことができた。

○次年度への課題・対策

- ① みどりのカーテンモニター講習会において、リピーターの参加者が多いことから、初めての参加者とリピーターを分け、初めての参加者を増やせるよう工夫していく。
- ② フードドライブ常設回収において、家庭以外の未利用食品も受け入れ始めたことにより、回収量の増加が期待される。今後は事務局だけでなく、会員や団体が主体となって継続できないか検討していく。
- ③ エコカンパニーえどがわについて、令和 4 年度より WEB システムを導入し運用を開始しているが、紙ベースのレポート提出もまだ残っていることから、ホームページ上でのレポート提出を徹底させ、完全にペーパーレス化が図れるように、登録事業所への周知を強化していく。

(3-1) もったいない運動えどがわの推進

項 目	計 画	実 績
もったいない運動登録者の拡大	152,000 人	150,176 人
環境フェア	5,000 人	954 人
地域イベントへの参加	14 回/8,300 人	9 回/5,370 人
もりあげ隊 (ボランティア参加者数)	実施	45 人

(3-2) 省エネ・新エネルギーの推進

項 目	計 画	実 績
家庭の省エネ診断・説明会	7 回/25 人	2 回/13 人
環境に配慮したエコライフ講座、講習会等	8 回/60 人	5 回/44 人
みどりのカーテンの普及啓発	13 回/200 人	講習会等 11 回/199 件 西葛西図書館 16 人 環境フェア 54 人 フォトコンテスト 1 回 交流会 6 人
キャンドルナイト (スタンド作り)	実施	2 回/32 人

(3-3) 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進

項 目	計 画	実 績
マイバッグキャンペーン	春・秋 2 回	春・秋 2 回
フードドライブ常設回収	実施	427 件/8,866 個
フードドライブ (地域まつりでの回収)	10 回/80 件	—
3Rに関する講座・講習会等	35 回/500 人	14 回/195 人
エコセンターおもちゃの病院	12 回/450 人	12 回/394 人

(3-4) 事業者の取り組み推進・支援

項 目	計 画	実 績
エコカンパニーえどがわ登録事業者の拡大	320 件	累計 293 件 (登録件数 6 件)
エコカンパニーえどがわ普及啓発講座 (再掲)	40 人	4 回/149 人
ece 登録事業者への省エネルギー相談	実施	実施

(3-5) 商店 (街・会) やスーパーのエコ活動支援

項 目	計 画	実 績
商店街主催イベントへの支援	実施	実施

(3-6) イベント等への参加

項 目	計 画	実 績
産業ときめきフェア	200 人	100 人
大型商業施設タイアップ事業 (イオン葛西店)	1 回/50 人	—

(3-7) チャレンジ・ザ・ドリーム (中学生職場体験)

項 目	計 画	実 績
チャレンジ・ザ・ドリーム (中学生職場体験)	4 回/20 人	3 回/10 人

(4) 情報の提供及び支援事業

○結果・評価

- ①会員向け日帰りバス研修会において、「首都圏外郭放水路」と「鉄道博物館」の見学を実施した。昨今温暖化に伴う豪雨の被害が拡大している中、洪水を防ぐ施設を見学し、また、省エネにつながる公共交通機関である鉄道の仕組みや歴史を知ることにより、参加者に地球温暖化防止や省エネの意識を再確認してもらうことができた。
- ②情報紙「エコちゃんねる」60号では令和5年度 NHK 連続テレビ小説をきっかけに話題となったムジナモについて紹介した。江戸川区とムジナモとの関係や北小岩でムジナモを発見した牧野富太郎について、エコアクション講座で実施した見学会の内容を盛り込み、区民へムジナモの PR を行った。
- ③PR の充実として、TOKYO MX や区民ニュース、FM えどがわ、えどがわ Voice において、会員の活動が紹介され、多くの区民が視聴した。特に、エコセンターの活動として環境フェアを中心に紹介した You Tube コンテンツは 3,500 回以上視聴され、関心の高さがうかがえた。
- ④認定の更新時期を迎え、更新手続きの資料等を揃え提出し、現地確認の際も概ね資料や記載の漏れもなく対応ができ、認定の更新がされる見込みである。
- ⑤令和5年度に中期計画(第4期)の策定がまとまり、内容では新たな視点として「プラネタリー・バウンダリー」や「ネイチャーポジティブ」、「Nbs」などに触れ、また江戸川区気候変動適応計画も参考とし、充実した中期計画となった。

○次年度への課題・対策

- ①情報紙「エコちゃんねる」の発行回数が計画通りに進まなかったため、令和6年度は編集打合せを行い、発行時期やテーマを年度当初に決めることを検討していく。
- ②20周年を迎えるにあたり、エコセンターを様々な方々に知ってもらうため、PR方法を工夫し講演会等を開催していく。
- ③会員獲得に向けて、SNSの活用やメールでの情報発信、会員特典などを検討していく。また、SDGs アプリ「eito」と連携しエコセンター事業を多くの区民に知ってもらえるような様々な仕掛けを検討していく。さらに、会員特典などのフィードバックなどを検討していく。

(4-1) 情報の発信と提供

項 目	計 画	実 績
情報紙「エコちゃんねる」の発行	4 回	60、61号 各 2,000 部
エコセンターパンフレットの活用	実施	実施
ホームページの運営管理	実施	実施
リーフレットの活用 (葛西海浜公園に行ってみよう！)	実施	実施
多目的ルームの活用	実施	実施

(4-2) 他団体との連携・活動支援

項 目	計 画	実 績
江戸川総合人生大学への講師派遣	2 回	2 回
東京湾再生官民連携フォーラム等との 連携	実施	実施

(4-3) 相談業務事業

項 目	計 画	実 績
会員等からの団体運営や事業等の相談	実施	実施

(4-4) 会員の拡大

項 目	計 画	実 績
会員向けの講演会・交流会の実施	実施	26 人
あらゆる機会を捉えた P R	実施	実施

(5) 自然環境の保全と活用

○結果・評価

- ①令和5年度は年2回実施していた東なぎさクリーン作戦の回数を3回に増やし、企業や団体が優先して参加できる回を設けた。ただ、天候などを鑑み自然観察会は実施せずに清掃活動に特化して実施した。また、3回目の東なぎさクリーン作戦は、「SDGs FES in EDOGAWA」の開催に合わせて実施し、本事業もSDGsの目標に向けて取り組んでいることを参加者に周知できた。
- ②企画提案事業において、ふるさと東京を考える実行委員会の「西なぎさビーチクリーン」の支援を行い、エコセンター事業のバリエーションを増やすことができた。
- ③令和4年度に引き続き、ラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園をPRするため親子を対象とした「葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー」を実施した。東京都公園協会や葛西海浜公園パートナーズ、NPO法人生態教育センター、葛西さざなみ会、東京都港湾局と多くの関係各所と連携し、生きものの観察や葛西海浜公園の歴史・生態について解説を行い、参加した子ども達に葛西の海を守り引き継ぐことの大切さを伝えることができた。

- ④東京都港湾局が主催する「葛西海浜公園ラムサール条約湿地登録5周年記念イベント」に出展し、エコセンターが葛西海浜公園で実施する取り組みについてPRを行った。葛西の海に関する多くの団体が出展し、情報交換や交流の場にもなった。
- ⑤ラムサール条約登録湿地のPR事業である「船上観察会」や「葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー」、そしてタイムリーな話題を捉えた「食虫植物ムジナモ見学会」などを実施することで、区民に楽しみながら自然環境保全について考えてもらうことができた。

○次年度への課題・対策

- ①ラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園のPR事業は今後も継続して行っていくが、現状では講師となる人材が高齢化しつつあるため、若い世代の人材を発掘していく。また、今後もラムサール条約に関係する事業を継続していくため、関連団体との連携を密にし良好な関係を築いていく。
- ②東なぎさクリーン作戦について、ヨシの繁茂により清掃活動するエリアが狭まってきており、参加者が清掃する場所を求めて広がってしまい、安全管理の確保が難しくなっている。東京都港湾局が計画している栈橋の完成まで、一回ごとの参加者人数や運営方法を検討する必要がある。

(5-1) 自然復元・再生事業

項 目	計 画	実 績
河川や海岸のクリーン作戦を通じた自然環境の復元	11回/650人	11回/693人
絶滅種や生物多様性に関する啓発(ムジナモ・ビオトープ)	11回/100人	9回/109人
東なぎさ生物調査	実施	1回/17人

(5-2) 自然体験・自然観察会

項 目	計 画	実 績
自然体験や自然観察会等の実施	16回/300人	17回/248人
一之江境川親水公園自然観察会	80人	93人

(5-3) ラムサール条約の登録・生物多様性の保全

項 目	計 画	実 績
ラムサール条約登録湿地(葛西海浜公園)のワイズユース及びPR	実施	実施
関係機関・関係団体・地域との連携	実施	実施
ラムサール条約登録湿地を船から見学する船上観察会(再掲)	1回/50人	53人
葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー(再掲)	1回/30人	15人